

市民のつながりによる 『災害に強い地域づくり』



～登別市連合町内会 令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞～



▲受賞を報告する登別市連合町内会の三役

内閣府は、毎年、災害時における人命救助や被害拡大防止などの防災活動の実施、平時における防災思想の普及・防災体制の整備などに貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体または個人を対象に、防災功労者内閣総理大臣表彰を行っています。

このたび、登別市連合町内会が行った『大規模停電時の教訓をふまえて、初期行動マニュアルを策定するとともに、情報伝達網を整備し、災害時などにおける住民への情報伝達体制の構築に寄与した功績』が認められ、『令和元年防災功労者内閣総理大臣表彰』を受賞しました。

過去の災害から学ぶ

平成24年11月27日、暴風雪の後に登別市を襲った大規模停電は、私たちに、寒さに対応する備えの重要さのほか、災害発生時における情報の大切さを改めて教えてくれました。

その教訓から、当時の95単位町内会（加入世帯数1万7千523世帯）と共に災害に関する情報を各会員へより確実に伝達するため、『緊急災害時情報伝達網』を整備するとともに、災害が発生した場合に速やかに行政と単位町内会のパイプ役となれるよう、初期行動マニュアルを策定し、地域の防災力強化を図った登別市連合町内会。

市が行う防災行政無線や防災メールなどによる情報発信に加え、市から市連合町内会事務局、地区連合町内会会長、各町内会の連絡担当者、町内会会員へと網の目状に情報が広がる緊急災害時情報伝達網により、市民の皆さんが災害発生時に必要な情報をより確実に得ることができ、市全体の防災力の向上につながりました。

緊急災害時情報伝達網は、町内会役員などの改選と合わせて、

毎年更新され、平成30年9月6日に発生した『北海道胆振東部地震』をはじめ、台風接近時の気象情報、クマの出没情報など、緊急を要する事案の伝達に活用されており、いつ発生するか分からない『大規模な災害』への備えとなっています。

市内に広がる町内会の『輪』

同じ地域で暮らす人々がふれ合いの場をつくり、助け合い、支え合いながら、快適で住みやすいまちを支えている『町内会』。

防犯灯の設置や子どもたちの登下校時の見守りなどの『安全・安心なまちづくり』やごみステーションの管理や花だん整備などの『きれいで快適なまち

づくり』、地域のおまつりや運動会などによる『ふれあいのあまちづくり』、広報のほりべつの配布や町内会回覧などによる『情報の伝達』、そして、災害時の『互いの見守り・助け合い』など、よりよい地域づくりの一翼を担っています。

地域で暮らすなかでの横のつながりや支え合いは、まちづくりには欠かせないものです。

より多くの方が町内会に加入し、地域のつながりを深めることが、よりよい『のほりべつ』につながります。

問い合わせ

市民協働グループ

☎0411079

会員の理解と協力による たまもの



登別市連合町内会

会長 **中川 信市** さん

今回の名誉ある受賞は、大規模停電がもたらした『寒さ』によって高められた市民の結束力の成果であり、登別市民全員への賞であります。多くの市民の皆さんのご理解とご協力に感謝申し上げます。

登別市連合町内会としましては、引き続き、会員皆様の力を借りながら市と町内会の架け橋となり、地域の防災力をさらに高めるなど、より魅力あるまちづくりを目指し、市と連携した取り組みを進めてまいります。